

北京日本学研究中心

通 讯

《第十六号》

责任编辑：山下纪久枝 譙燕 邮政编码：100081 Tel: 8422277--584 1991.12.15

1992年度客座研究员招聘细则

从1992年开始，“中心”将按下列细则在全国公开招聘客座研究员。

- 一、对象：已取得硕士学位或具有讲师以上资历的德、智、体全面发展的日本学研究学者，年龄在40岁以下（1952年3月1日以后出生者）。
- 二、条件：①具有较高的研究能力，能独立进行专题研究者。②有一定教学和研究经历并取得一定成果者。③遵守规章制度，作风正派，工作认真负责，并能和同事团结合作者。
- 三、方向：日本语言、日本文学、日本社会、日本文化。
- 四、任务：①按确定专题进行研究。②研修期满前提交研究成果。③协助中日专家作适当的教学辅导工作。④协助“中心”作适当工作。
- 五、名额：每年10名。
- 六、期限：半年至一年（本期客座研究员将于1992年3月1日到职）。
- 七、待遇：由本“中心”提供生活及研究费用。
- 八、申请手续：①凡符合招生条件者，由两名具有高级职称的学者推荐并经原单位审查同意，即可向本中心提出申请。②申请时，请填写“北京日本学研究中心客座研究员申请表”并递交最近3年来公开发表的论文一份。③申请截止日期为1992年1月10日（以当日邮戳为准）。
- 九、审查手续：由专家审查小组具体评定，最后由中日双方主任、主任教授审定，并送上级机关批准。
- 十、录取通知：录取结果将于1992年1月通知本人。

92年度研究生招生宣传活动

从11月上旬开始，在以下三个地区，进行了92年度研究生招生宣传及“中心”情况介绍活动。①华东地区（杭州·上海·苏州·无锡·南京／佐藤主任教授、陈海良副主任），②西北地区（西安·郑州／宁民治先生、杨宝香先生），③北京（李书成代理主任）。在各地的大学、日语学会进行了讲演，召开了座谈会，并见到许多希望报考“中心”的人员，这次的宣传活动很成功。

公开讲座

◎第10次 11月21日(星期四) 源氏物语的历史和虚构

--从与中国史书·传奇的关系来看--

田中隆昭先生

◎第11次 11月28日(星期四) 租税的「效率性」和「公平感」 荒山裕行先生

◎第12次 12月5日(星期四) 西洋「探索」与中国经验：1860--1871

松泽弘阳先生

◎第13次 12月12日(星期四) 日本语的地域差别 加藤正信先生

◎第14次 12月19日(星期四) 「近代日本的『爱』之虚伪」(伊藤整)的问题

野坂幸弘先生

☆12月19日是1991年秋季学期公开讲座的最后一次。下次从1992年3月开始。

书评·《中国人的消费风俗》

大滨彻也

本书是从“消费风俗”的立场出发,从历史的角度来概括中国生活文化的各个方面,探求如何建立一种与现代化过程中的“社会主义精神文明”建设相符合的生活。其内容从历史的角度追溯了饮食、服饰、居住、交通、婚姻、丧葬、节日、游艺、宗教等领域消费生活的诸方面,并涉及到“消费风俗的主要特征及其他”、“努力完善适合中国国情的消费风俗”的问题。有关第一章饮食问题,该书根据以主食、肉类、酒类、茶、烟为主的生活风俗,评价了佛教、道教、回教、少数民族信仰和禁忌等饮食风俗,在探讨了从食器类到烹调方法的地域差别的基础上,又叙述了1949年以后节日的情形。作为一部风俗史,该书每个论点都有独到之处并阐述具体,现实地论述了中国文化的多样性。对于从中国的立场出发学习日本的生活和文化,从现实生活的角度来重新认识一种作为观念的知识,这种投之于日常生活的眼光,是一种十分必要的现实视角。我在阅读此书的过程中,想到了柳田国男的《明治大正史·世相篇》,不由得产生了欲从消费风俗的角度来撰写日本近现代史的念头。另外,从检查我们有关日本的知识之角度,也有必要阅读一下此书所涉猎的世界。(国世平 袁铁坚 杜平著 1991年3月 中国社会科学出版社 4.05元) (马朝红译)

日本学研究会简介

日本学研究会于1991年11月12日宣告成立。该研究会是一个民间学术团体,主要从事有关日本学的教学和研究活动。会长由“中心”代理主任李书成先生担任,秘书长为宋金文。该研究会每月以学术座谈会形式举行1~2次活动。欢迎有志者参加。(宋金文)



1992年度客員研究員招聘細則

本センターは、1992年度から、以下の細則に従って、客員研究員の全国的な公開招聘を行う。(下記の「細則」には、一部省略がある。)

1. 対象：既に修士の学位を有するか、又は講師以上の資格を有する者で、徳性・識智・体力に優れた日本学研究者。年齢は40歳以下の者(1952年3月1日以降に生まれた者)。
2. 条件：(1) 高度の研究能力を具え、独立して専門的研究を遂行できる者。
(2) 一定の教育と研究の経験を有し、併せて一定の成果を挙げている者。
(3) 規則を遵守し、人格的に優れ、責任感が強く、且つ協調性のある者。
3. 研究分野：日本語学、日本文学、日本社会、日本文化。
4. 任務：(1) 所定の研究テーマに従って研究を行うこと。(2) 任期満了前に研究成果を提出すること。(3) 中日教員の授業・研究指導を補佐すること。(4) 本センターが必要とする業務に従事すること。
5. 募集人員：10名
6. 期間：半年乃至1年(1992年3月1日より任期開始)。
7. 待遇：本センターの規定による生活費及び研究費を支給する。
8. 申請手続：(1) 募集の条件に合致する者は、助教授・副研究員以上の資格をもつ者2名の推薦を受け、且つ現所属単位の審査と同意を得た上で申請すること。
(2) 申請の際には「北京日本学研究センター客員研究員申請書」に必要事項を記入し、且つ最近3年間に公表した論文1篇を提出すること。
(3) 申請書は1992年1月10日までにセンターに提出すること。当日消印有効。
9. 選考：選考は、客員研究員選考委員会が評定した後、最終的に中日双方の主任・主任教授が審査し、上級機関に報告、承認を得る。
10. 合格発表：選考の結果は、1992年1月中旬に応募者本人に直接通知する。

1992年度大学院生募集PR活動

11月初旬から、以下の三地区において、92年度の大学院生募集PRならびにセンター紹介の活動を行った。

①華東地区(杭州・上海・蘇州・無錫・南京/佐藤主任教授、陳海良副主任)

②西北地区(西安・鄭州/寧民治氏、楊宝香氏)、③北京(李書成主任代行)

各地の大学・日本語学会で講演・座談会を行ったところ、センター受験希望者もかなり見られ、今回のPR活動は成功裏に終わった。

公開講座

- ♡第10回 11月21日(木) 源氏物語における歴史と虚構
—— 中国史書・伝奇との関係から —— 田中隆昭先生
- ♡第11回 11月28日(木) 租税における「効率性」と「公平感」 荒山裕行先生
- ♡第12回 12月5日(木) 西洋「探索」と中国経験：1860-1871 松澤弘陽先生
- ♡第13回 12月12日(木) 日本語の地域差 加藤正信先生
- ♡第14回 12月19日(木) 「近代日本における『愛』の虚偽」(伊藤整)という問題
野坂幸弘先生

☆1991年秋学期の公開講座は12月19日が最後となります。次回は1992年3月です。

書評・『中国人的消費風俗』

大濱徹也

本書は、「消費風俗」という視座から、中国における生活文化の諸相を歴史的に概観し、現代化のなかにおける「社会主義精神文明」を建設するにふさわしい生活をいかにきずくかを問いかけたものです。その内容は、飲食、服飾、居住、交通、婚姻、喪葬、節日、游芸、宗教の各分野における消費生活の諸相を歴史的にあとづけた上で、「消費風俗的主要特徴及其他」「努力完善適合中国国情的消費風俗」にまで説きおよびます。第1章の飲食に関してみれば、主食、肉類、酒類、茶、煙草等をめぐる生活風俗をふまえ、仏教、道教、回教、少数民族の信仰と禁忌をめぐる飲食風俗を位置づけ、食器類から調理法にかかわる地域差を検討した上で、1949年以後の状況につき、節日のありかたまでふくめて論じています。その内容は、風俗史として、各論ごとに個別具体性に富み、中国文化の多様性を即事的に述べたものです。こうした日常生活への眼こそは、中国の立場から日本の生活と文化を学ぶ上で、観念としての知識を即事的な生活の場から読み直すために必要な視座といえましょう。私は、本書を読みつつ、柳田国男の『明治大正史 世相篇』を想起し、消費風俗という眼で日本の近現代史を書いてみたいとの思いにかられました。日本についての知識を点検する上からも、本書が問いかける世界をひもといてみて下さい。

(国世平 袁鉄堅 杜平著 1991年3月 中国社会科学出版社 4.05元)

日本学研究会紹介

1991年11月12日、日本学研究会が発足した。当研究会は、民間学術団体であり、主に日本学に関する教学及び研究活動を行うものである。会長は本センターの李書成主任代行、秘書長は宋金文氏である。当研究会は毎月1、2回、座談会形式で研究発表会を行う。有志の方々の参加を歓迎する。